童

2023 年 5 月 31 日.

先日、大地の高社の丘に初めて訪れた方が、田んぼの方を見下ろして、「下に大きな川が流れているのですか？」と聞いてきました。見ると、水田に水が張られて、木立の合間から、きらきら川のように輝いているのです。確かに、そう言われれば、まさにその通りです。大きな水田に水が張られている光景は、まさに巨大な鏡のようであり、この時期しか見ることができません。田植えが終わると、うっすら緑色に変化し、これまた美しい光景です。

そんな 5 月、あれよあれよという間に過ぎ去ったような気がします。子どもたちは、ひたすら、田んぼ　オタマジャクシ、ノビル、かねちょろ、オタマジャクシ　カエル　などを連日、午前中は　歩く歩く！！　大人は、毎日同じ所なら飽きてしまうと思いがちですが、これは　はっきり言って間違いです。この方が、子どもは安心と安定とリズム、そして、明日もこの続きができるんだ、そして　何よりもその遊び　世界が深まっていくのです。「毎日　同じ所だから同じ遊びだからつまらない」なんて言う子どもはいません。それだけ、想像力と創造力があるのです。まさに、自然の一員　メルヘンとファンタジーの塊ですね。

植物や樹木や農業などの光景を見ていると、まさに季節の変化、流れを実感します。一番は、雑草の伸び、草刈りの頻度です。特に、今年は、草刈り開始が早く、それだけ、季節が早く流れているように感じます。マニュアル通りの暦　カレンダーに合わせて暮らすのでは無く、その時々の季節の変化に対応して暮らしを作っていく、まさに　柔軟なプロジェクトマネージメント力が必要な時代になってきています。商売や仕事だけではなく、日常の暮らしにも、想像力が必要になってきています。

そんな意味からして、子どもたちの遊びや暮らしを見ていると、よくまあ毎日飽きずに同じ環境で同じような遊びを夢中になって不平も言わずに遊んでいるものだと感心、驚嘆します。！！　やはり、遊具や玩具に縛られない自然の中の遊びは、柔軟性と想像力を鍛えるものでしょうね。まさに　「退屈は想像力への入り口」であるです。

【ミラクル魔法】

「大地のステージはミラクル魔法がかかります」というメッセージを頂いた。沖縄公演終了後に、かのせんぜもんから頂いたそれである。公演後、「大地の思いは、天候をも操ることができる」などと嘯き、いい気になって図に乗っている青ちゃんを、更に、うぬぼれさせ、自意識過剰にさせるメッセージであった。

長野で三回行われる沖縄公演。野外公演は大地のみ。これが天候で室内になれば、看板に偽りあり、他の二回の公演には、設備環境上完全に劣る、それでは大地で行う意味と味がない。それだけに天候が大きな決め手であると、この公演が決まった段階から思っていた。

大地の行事は、どんな天候でも受け入れて下さる寛大かつ思いやりのある情け深いかつ青ちゃんはどうにもならないと思って下さる保護者の皆さんの温情で、好き勝手にやれますが（感謝!!)、今回は、きちっとしていて、大地とは違う。お客さんが大地関係者だけだったら、どんな天気でもジタバタしない、逆に面白そうと思ってくれるかもしれないが、今回は　大地は　会場を貸すだけで（楽屋にもなったが)、企画運営は違う。それでも、野外　大地での活動企画は、でしゃばってやってしまったが。(沖縄屋台　合唱　父親トーチング）そして　究極の小雨野外ギリギリ決行判断。

公演 2 日前までは、天気予報が雨予報の中でも、絶対大丈夫だと思っていたが、さすがに前日の朝には、不安がよぎってきて、午後には、雨仕様を決定。(いつも強きを装っていますが、実は　気が弱く慎重なのです。やはり、小中高と文系、帰宅部のせいか）当日の朝には、テントを張り、雨をイメージして会場作りをしながら、関係者にも、「今日は　完全に雨ですね」と諦めの言葉を振りまいていました。

自分の人生、うぬぼれて自信満々の時は、必ず失敗したり裏切られたり。謙虚に慎重にやりすぎるぐらいの対策を練った時（とりこし苦労　やり過ぎ対策）は、予想に反して奇跡が起こる　と言うことは、定番であるだけに、これだけ、晴れと雨の二本立て準備をしておけば、もしかすると!?　という淡いかつ絶対的な自信（やるだけやって後悔しない）を秘めて、弱気に雨仕方が無いと言いながら、天は味方する　とほのかな期待を楽しんでいました。

「雨でも私はやりますけれども、お客さんは、雨中では寒かったりして、集中して楽しめない、こちらのメッセージも届かない環境になってしまう」というまさにお客様を思いやる優しさ　プロ根性。(保護者に過酷な状況を与える思いやりのない園長に投げつけたい言葉）　野外公演をあえて選択して来ているのだから、ある程度の覚悟を持ってきているでしょう、逆に　過酷な沖縄戦を伝える芝居だけに、お客さんも、過酷なほうが一体感があるのでは　などと嘯く青ちゃん。こんなやりとりが続く中、はっと！！　俺　主催者じゃなかったんだと気づき、開始時雨降りだったら潔く諦めますが、ギリギリまで無駄でも決行する準備します、と、「これが大地だったら、意地でも絶対やるのに」と意味のわからない悔しさを持ちながら黙々と、このまま　小降りでお願いしますと、定番の祈りを捧げていました。

再度、主催者との話し合い。あくまでもお客さん本位の立場でありながら、野外でやりたい思い願いを熱く持っていて、リハーサル時から熱望していただけに、彼女の為に何とかしたいと思っている中、雨は小康状況。最終的には、彼女も、不満があれば返金する　お客さんに青ちゃんの口を通じて、この状況で行う趣旨覚悟を説明するという結論で、野外決行を決定。ああ、これで天気次第で天国と地獄を請け負う羽目になってしまった自分。俺　主催者じゃないのに、またまた　とんでもないことをしてしまった　と久しぶりに後悔。入場料やお金が絡んでいなかったら、こんな苦労ははしないのに。

そうそう、雨で室内になっても、大地の父親トーチング部隊には、どんな雨降りでも外でトーチングは行います、雨中であるからこそかっこいい　と秘かに過酷な状況を期待していた青ちゃんでしたが。

決定後は、ひたすら豪雨にならないことを祈るだけ。このまま小康状態を保つだけで十分、急激な土砂降りにならなければ OK と祈りつつ。いざ　舞台が始まると、なんと美しい幻想的かつ神秘的な世界だと。ミストを全身に浴びながら、夜の大地のスロープが　別世界になり、思わず鳥肌が立ちました。後半を過ぎると、不安が確信に変わっていきました。大丈夫、最後までいけるだろうと。そして、グランドフィナーレをいけるに違いない、トーチングも絶好の花となるだろうと・・・・・。

文庫 20 周年。ホールには　20 年の歴史を刻む写真やパネルが飾られています。大地は 30 年　夫婦 40 年　自分の年齢 65 年。事故　怪我　病気　火事　様々な刺激的危機的状況の連続ですが（妻は　本当に刺激的で飽きない人生と言っていますが)。不死鳥のように、ただでは起きない人生を綱渡りのように、ぎりぎり危機的な状況を自ら招き入れて生きて来ているように感じます。ただ、絶対に諦めない、執念深く俺は大丈夫　と願い続ける人生。やるだけやれば、天は見守ってくれる　と信じています。

最後は　祈るしかない。祈りは　全力で生きるものにしか、その力は与えられないと信じています。